

キラリ看護部



Vol.4

内視鏡看護について

こんにちは、内視鏡担当看護師です。

もし診察の時に医師から、「今度胃カメラをしましょう。」と言われたら、「え〜嫌だなあ。」できれば受けたくないなあ。」と、きつと多くの皆さんは思われることでしょう。

長年、内視鏡に携わっていますが、「胃カメラ好き！」とおっしゃる方に今までお会いしたことはありません。私たちスタッフは、こんな皆さん方の不安な思いに寄り添って、少しでも安心して、そして安全に検査や治療を受けていただけるように、日々心がけています。今回は、診療（検査）の一部をご紹介します。

緑ファイルを持って
どうぞお入りください
(^^)★



内視鏡スタッフ
左側 服部看護師
右側 日高看護師



内視鏡スタッフ 前列左から板持医師、三上医師、後列左から保名看護師、高橋看護師、福谷臨床工学技士、神崎臨床工学技士、横田看護師

その一

胃カメラ（正式には上部消化管内視鏡検査と言います）の時、まず喉元の麻酔をしますが、以前は麻酔剤を喉に3分程度溜めてもらっていた。この方法が一般的なのですが、この時点で気持ち悪さを感じ、中には吐き気を催す方もいらっしやいました。そこで、イチゴジャムを混ぜて少し甘くした麻酔剤を凍らせ、あめ玉のように喉元でなめてもらう方法に改良しました。「この方がいいです！」と検査を受けられる方からは好評をいただいています。



検査中は看護師がそばでサポートします

その二

喉の麻酔が終わるといよいよカメラを飲んでもらいます。この時、当院では必ず看護師がそばに居て、声掛けや背部のタッチングを行っています。「とすつてもらったお陰で楽にできました。」という言葉をいただくこともあり、そんな時には私たちの心も癒やされます。また、少しでもリラックスしていただけるよう音楽を流しています。これは私たちが選曲し持ち寄ったCDですが、もしご自分の好きな曲があれば持参してください。ご希望の曲を流すこともできます。（演歌でもロックでも何でも結構です。）

その三

最近、□ではなく鼻から入れるカメラを選ばれる方も増えていきます。喉の反射の強い方はぜひ鼻からお勧めします。□からだど「ゲージ」と反射がとても強かった方が、鼻からしたところ、嘘のように何ともなくできたという方も結構いらっしやいます。

カメラの太さの比較



☆鉛筆より細いです

最後に、私たち内視鏡担当看護師は、経験と学習を積み重ね内視鏡技師免許を取得している者が多くおり、常に研鑽しています。近年は内視鏡での治療技術も進歩しており、早期胃癌の内視鏡的手術を当院でも行っています。私たちが皆さんに寄り添わせていただきますので、早期発見・早期治療ができるように、ぜひお気軽に内視鏡検査を受けていただきたいと思えます。スタッフ一同お待ちしております。